

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第141集

仲田遺跡Ⅱ

長野県佐久市猿久保仲田遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2006. 12

YORI CORPORATION

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書はYORI CORPORATIONによる宅地造成（貸店舗の建設）事業に伴う仲田遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 有限会社YORI CORPORATION 代表取締役 中島 靖夫
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 三石 昌彦
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 仲田遺跡Ⅱ(NTTⅡ)
佐久市猿久保字仲田538-1、538-7、541-5
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。
H-竪穴住居址 F-掘立柱建物址 D-土坑 P-ピット
- 2 スクリーントーン表示は以下の通りである。



- 1 挿図の縮尺は以下の通りである。
遺構-竪穴状遺構・掘立柱建物址・土坑・ピット 1/80
遺物-土器 1/4 鉄 1/3 勾玉 1/1
- 2 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 3 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 4 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

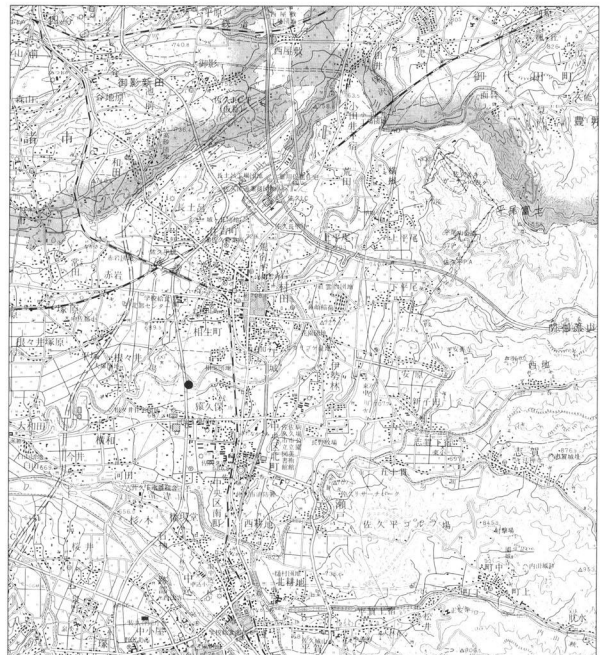
目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1. 立地と経過	1
2. 調査体制	2
3. 遺構と遺物の詳細	2
4. 基本層序	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
H1号住居址	2
H2号住居址	5
D1号土坑	6
F1号掘立柱建物址	7
ピット	7

写真図版

抄 録



仲田遺跡Ⅱ位置図(1:100,000)

第 I 章 発掘調査の経緯

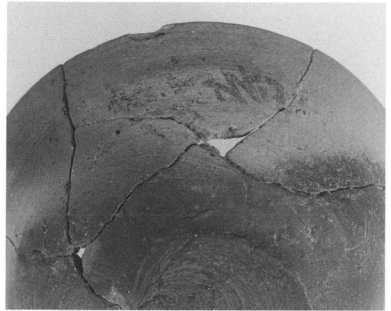
1. 立地と経過

仲田遺跡は佐久市猿久保地積に所在し、標高678mを測る湯川左岸の段丘上に位置する。遺跡内では平成7年度バイパス建設に伴い発掘調査が実施され、古墳～平安時代の住居址30軒、掘立柱建物址11棟及び遺構内からは多くの遺物が出土している。特徴的な遺物としては、平安時代の住居址床上から出土した銅製の鏡（花卉双蝶八花鏡）、平安時代の住居址出土で外面に「一寺」と墨書された土器をあげることができる。鏡について、同様の形態・文様を持つものは、これまで全国で10例前後しか確認されておらず、出土位置も一部の地方遺跡を除き、近畿地方の寺院関係遺跡、神社伝世鏡となっているものが多く、寺院の荘厳具としての特徴を持つと考えられている。仲田遺跡からは鏡を出土した住居址とは別遺構であるが、前述したように「一寺」と墨書された土器も出土しており、付近に寺院的建物が存在していた可能性を伺い知ることができる調査結果となった。

今回、調査対象となった地域は、仲田遺跡の東に隣接する地域であり、YORI CORPORATIONによる貸店舗建設事業に先立ち、試掘調査を実施した。結果、住居址等の遺構が認められたため、開発主体者と文化財保護協議を重ね、遺構の破壊が予想される建物直下及び擁護壁部に位置する遺構の記録保存を目的として発掘調査を実施する運びとなった。なお、開発に際し、遺構への影響無しと認められた住居址2軒は埋土保存とした。



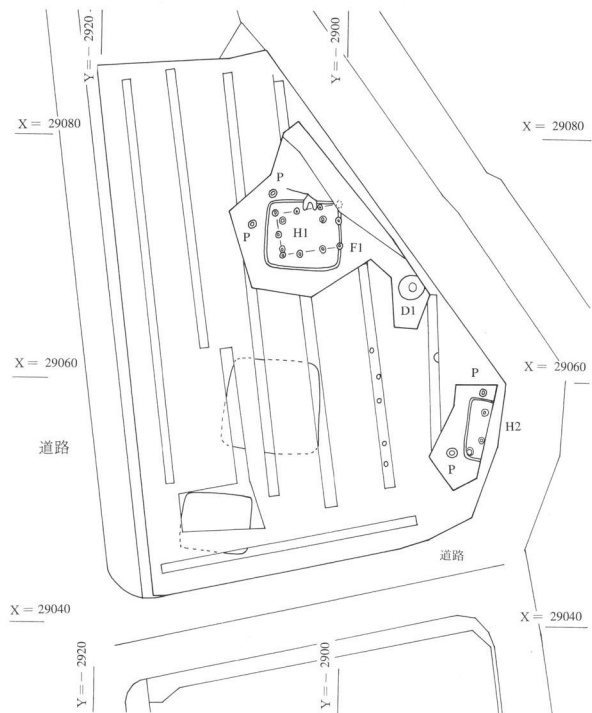
仲田遺跡出土花卉双蝶八花鏡(H7調査)



仲田遺跡出土「一寺」墨書土器(H7調査)



調査区位置図



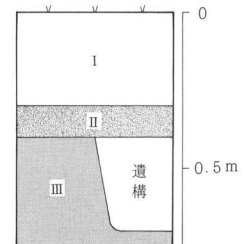
仲田遺跡II調査区・試掘トレンチ配置図(1:500)

2. 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	三石昌彦						
事務局	社会教育部長	柳沢	義春						
	文化財課長	中山	悟						
	文化財保護係長	高村	博文						
	文化財調査係長	高柳	正人						
	文化財保護係	荻原	留美	高橋	浩一				
	文化財調査係	林	幸彦	須藤	隆司	小林	眞寿	羽毛田卓也	
		富沢	一明	神津	格	上原	学	出澤	力
調査主任	佐々木宗昭	森泉	かよ子						
調査副主任	堺	益子							
調査担当者	上原	学							
調査員	甘利	隆雄	加藤	信一	菊池	喜重	小山	功	
	武者	幸彦	田中	ひさ子					

3. 遺構と遺物の詳細

遺構	竪穴住居址	2軒	古墳時代中期2軒
	掘立柱建物址	1棟	古墳時代中期以降
	土坑	1基	古墳時代中期
	ピット	4個	
遺物	土器	土師器(坏・高坏・甕・小型丸底壺)	須恵器(坏・甕)
	石器(編み物石)	勾玉	
	鉄製品(刀子)		



基本層序模式図

4. 基本層序

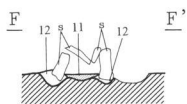
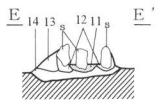
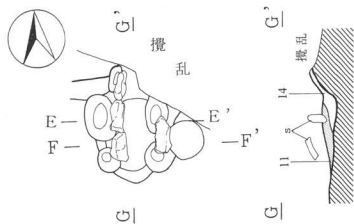
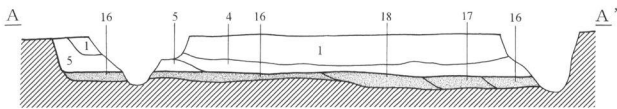
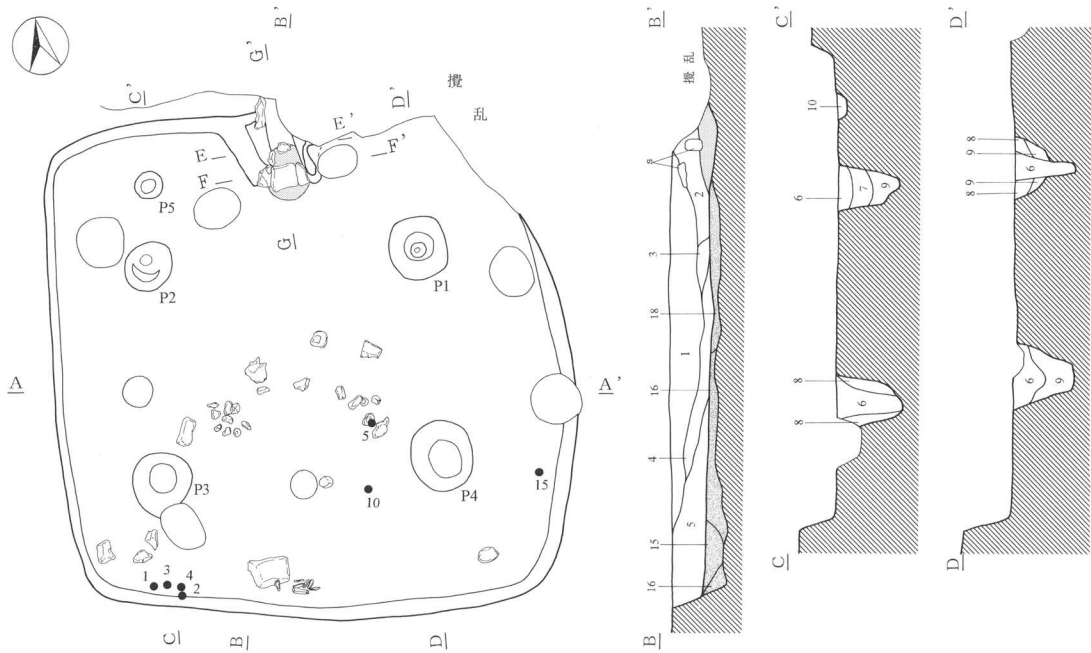
対象地は湯川左岸の低位段丘上に広がる水田地帯に所在することからⅠ層は水田の床土上層で褐灰色土、Ⅱ層は水田の床土下層で赤褐色土、Ⅲ層は粒子の細かい黄褐色の砂層となる。遺構確認は黄褐色砂層上面で行った。

第Ⅱ章 遺構と遺物

H1号住居址

遺構は調査区北東に位置し、北東コーナー付近を近年の攪乱に破壊され、F1号掘立柱建物址に切られる。規模は東西6.5m、南北6.2m、確認面から床面までの深さは50cmを測る。平面形態は隅丸方形である。床面は掘方に埋め込まれた土が砂質であるため、通常認められる土間状の硬質面は存在しなかった。ピットは主柱穴が4本認められた。カマドは北壁中央付近に石材を組み合わせ、土を覆い構築されているが、土の大半は崩れ落ち、煙道先端付近は攪乱に破壊されていた。焚き口部には天井石が架けられ、中央部で2分され崩落していた。火床には22cmの厚みで焼土の堆積が認められ、中央には煮炊き時に土器を支える支脚石が当時の状態を保っていた。掘方は砂質の黄褐色土が10～16cmの厚みで埋め込まれていた。

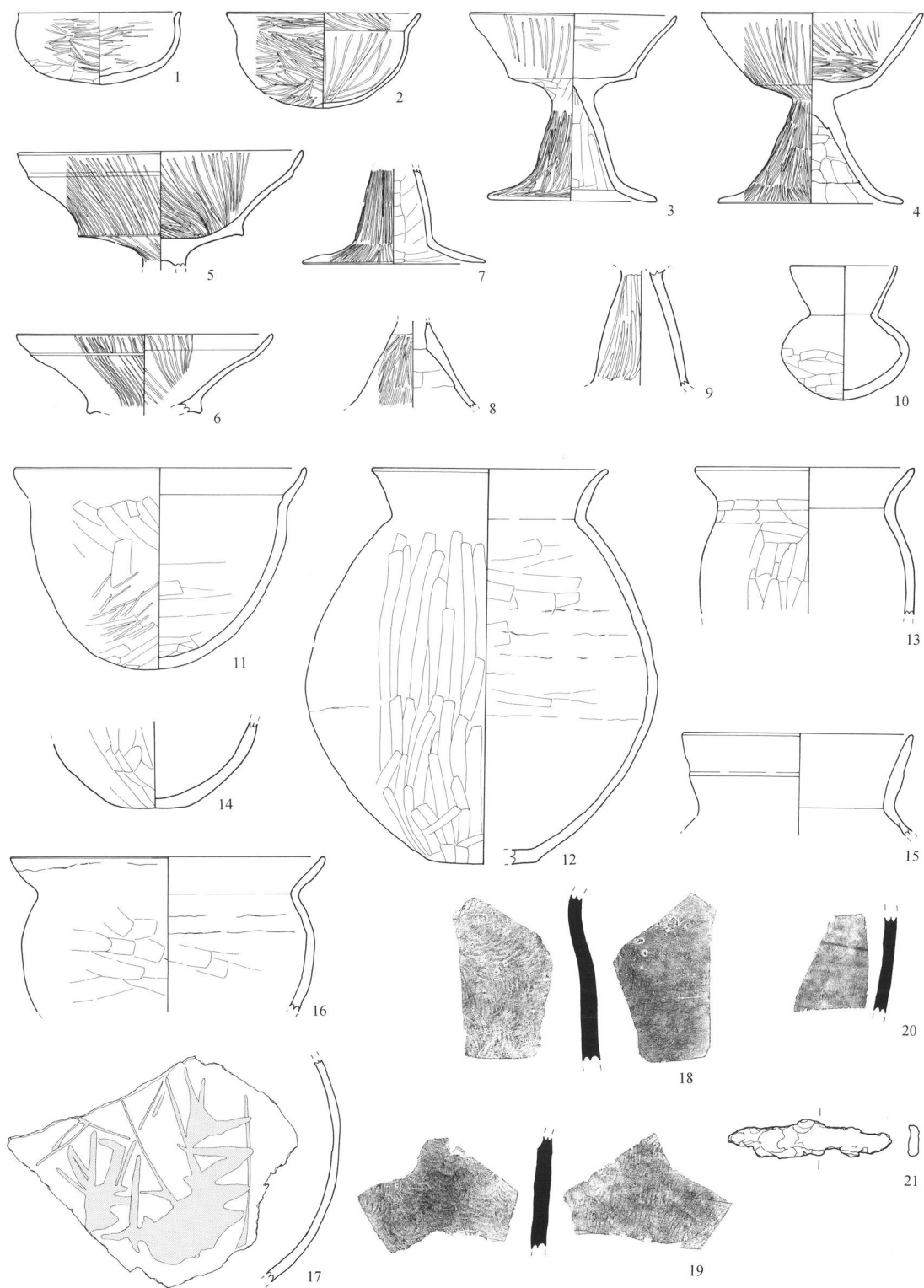
遺物は、床面上からほぼ完形の土師器小型丸底壺、高坏坏部、甕、南壁に接するように土師器高坏、坏、鉢、編み物石などが集中して出土した他、覆土中に鉄製品が1点認められた。本住居址の時期は、形状的には5世紀前半頃と思われる小型丸底壺などやや古式の様相を示す土器も含まれるが、これらの土器は確実に他の土器と共存していたと考えられ、住居址内施設もすでにカマドが導入されていることから5世紀中頃としたい。



676.800m
0 (1.80) 2 m

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、小石、砂質黄褐色土、軽石含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、砂、炭化物少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石、砂、炭化物少量含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石、砂、炭化物少量含む。ややしまりあり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石、砂、炭化物少量含む。しまりなし。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土含む。砂質。
- 7 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 暗褐色土少量、灰褐色砂含む。砂質。
- 8 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土含む。砂質。
- 9 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土少量含む。砂質。
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、軽石含む。
- 11 明赤褐色土 (2.5YR5/8) 焼土層。
- 12 鈍い赤褐色土 (5YR4/4) 焼土少量含む。
- 13 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土少量含む。やや砂質。
- 14 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土、砂含む。やや砂質。
- 15 暗褐色土 (10YR3/3) 黒褐色土、炭化物含む。砂質。
- 16 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。
- 17 暗褐色土 (10YR3/3) 砂主体。
- 18 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。

H1号住居址実測図



H1 号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	12.1	丸底	5.4	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ、ミガキ 内面ミガキ	85	良	5YR5/8 明赤褐色
2	土師器	坏	[14.5]	丸底	7.1	外面ヘラケズリ ミガキ、内面放射状暗文	60	良	5YR5/8 明赤褐色
3	土師器	高坏	16.5	13.8	14.2	外面縦ミガキ、坏部底部ヘラケズリ、内面横ナデ 体部下半～みこみ部摩耗 脚部内面ヘラナデ	100	良	7.5YR6/6 棕色
4	土師器	高坏	[15.5]	12.6	13.9	外面縦ミガキ、坏部底部ヘラケズリ、体部内面横ナデ 斜め放射状暗文脚部内面ヘラナデ	65	良	5YR6/6 棕色
5	土師器	高坏	21.4	—	—	外面縦ミガキ、内面斜め放射状暗文 みこみ部交差状暗文	坏部60	良	2.5YR4/4 赤褐色
6	土師器	高坏	[19.2]	—	—	外面縦ミガキ、内面放射状暗文	坏部破片	良	7.5YR6/6 明褐色
7	土師器	高坏	—	13.6	—	外面縦方向ミガキ、内面ヘラナデ	脚部70	良	2.5YR4/8 赤褐色
8	土師器	高坏	—	—	—	外面縦方向細かいミガキ、内面ヘラナデ	脚部破片	良	2.5YR6/8 棕色
9	土師器	高坏	—	—	—	外面縦方向細かいミガキ、内面ヘラナデ	脚部破片	良	2.5YR6/8 棕色
10	土師器	小型丸底壺	7.9	丸底	10	口辺内外面横ナデ、外面ヘラケズリ	98	良	10YR6/4 鈍い黄棕色
11	土師器	鉢	[21.8]	丸底	15	口辺内外面横ナデ 外面下半ヘラケズリ 上半ヘラナデ ミガキ、内面ヘラナデ	50	良	5YR5/4 鈍い赤褐色
12	土師器	甕	17.6	[8]	29.5	口辺内外面横ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ	50	良	5YR5/4 鈍い赤褐色
13	土師器	甕	[16.4]	—	—	口辺内外面横ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	2.5YR6/6 棕色
14	土師器	甕	—	6.7	—	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ	底部～胴部破片	良	5YR5/2 灰褐色
15	土師器	甕	17.2	—	—	内外面横ナデ	口辺100	良	10YR7/4 鈍い黄棕色
16	土師器	甕	[23.6]	—	—	口辺内外面横ナデ、外面横ヘラケズリ、内面横ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	10YR7/4 鈍い黄棕色
17	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ 火だすき、内面ヘラナデ	胴部破片	良	10YR6/4 鈍い黄棕色
18	須恵器	甕	—	—	—	外面「X」等線刻、内面同心円当て具痕	胴部破片	良好	10YR4/1 褐色
19	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き、内面同心円当て具痕	胴部破片	良好	N3/0 暗灰色
20	須恵器	甕	—	—	—	外面自然釉付着、内面同心円当て具痕	胴部破片	良好	5Y7/1 灰白色
番号	器種	重量g	長さcm	幅cm	厚さcm	調整	備考		
21	刀子	24.5	8.76	1.86	0.49	—			

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g
22	編み物石	18.2	2.5～5.05	2.86	444.5	28	編み物石	16.1	4.25～5.7	2.8	460.2
23	編み物石	13.15	4.24～5.73	3.39	442.5	29	石錘?	7.85	5.54	1.75	99.4
24	編み物石	12.95	5.84～5.95	3.97	409.5	30	すり石?	6.55	5.25	2.85	104.9
25	編み物石	13.8	4.15～5.3	3.85	360.3	31	すり石?	5.94	4.16	2.45	70.9
26	編み物石	15.1	4.45～6.05	25.～4.2	531	32	すり石?	3.86	2.6	1.12	13.9
27	編み物石	15.6	3.17～4.8	3.9	486.2	33	ミガキ石	4.2	1.62	1.22	11.8

H1号住居址遺物観察表(22～33は写真図版参照)

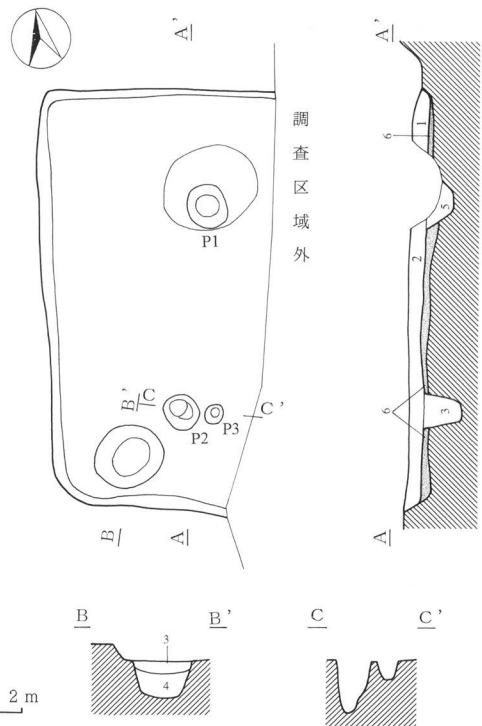
H2号住居址

遺構は調査区東側に位置し、東側半分は調査区域外となる。調査規模は東西2.8m、南北5.0m、確認面から床面までの深さは18cm内外を測る。平面形は調査状況から方形と思われる。床面はやや堅さを持つ。床面上からは西側2個の支柱穴及び南西コーナーに径80cm、深さ45cmの貯蔵穴と思われる土坑が存在する。カマドは確認できなかった。北壁の調査区域外または東壁に構築されていると思われる。掘方は10cm内外の厚みで褐色土が埋め込まれていた。

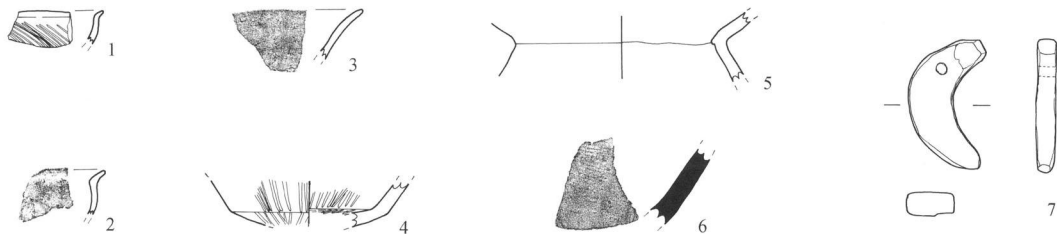
遺物は土師器片及び須恵器片が僅かに出土した他、貯蔵穴と思われる土坑内から三日月状の石製勾玉が出土した。遺物中には、端部が僅かに外反する坏片、放射状のミガキを有する高坏片、赤色塗彩を施す壺又は甕片等の特徴が認められることから、本住居址は5世紀後半頃としたい。

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 小石含む。砂質。しまりなし。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) ローム層。小石、軽石含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、砂含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色砂主体。しまりなし。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色砂多量含む。しまりなし。
- 6 褐色土 (10YR4/6) 砂主体。(掘方)

0 676.900 m
(1:80) 2 m



H2号住居址実測図



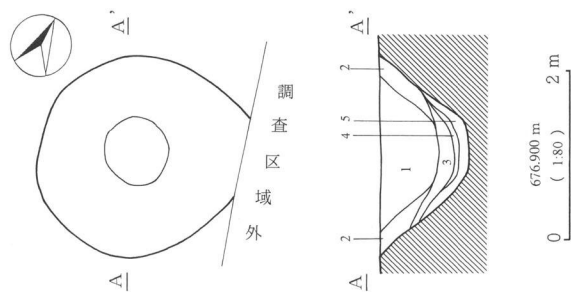
H2号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	—	—	—	口縁横ナデ、外面ミガキ	口縁破片	良	2.5YR5/6 明赤褐色
2	土師器	坏	—	—	—	口縁横ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ	口縁破片	良	2.5YR5/6 明赤褐色
3	土師器	高坏	—	—	—	外面赤色塗彩 ミガキ、内面横ナデ	脚裾部破片	良	104/6 赤色
4	土師器	高坏	—	—	—	内外面ミガキ	坏部破片	良	2.5YR5/6 明赤褐色
5	土師器	甕	—	—	—	口辺横ナデ	頸部破片	良	2.5YR5/4 鈍い赤褐色
6	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き、内面ヘラケズリ	胴部破片	良好	10YR4/1 褐灰色
番号	器種	重量g	長さcm	幅cm	厚さcm	調整	色調(外面)	備考	
7	勾玉	1.26	1.95	0.69	0.34	表面擦り痕 孔径1.17	灰青色		

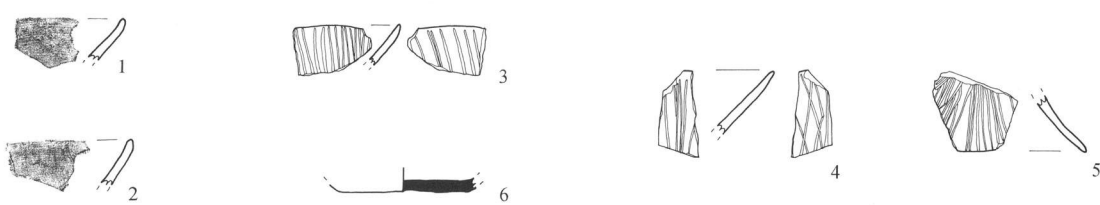
H2号住居址遺物観察表

D1号土坑

遺構は調査区東側調査区境に位置する。規模は径約2.4mを測る円形で、確認面から底部までの深さは1.04mを測る。形状はすり鉢形である。遺物は古墳時代5世紀後半頃と思われる土師器片、奈良・平安時代の須恵器1片が出土した。遺物中には放射状のミガキを施す高坏片及び壺又は坏の口縁部、内彎気味の坏口縁、厚手の甕片、回転糸切り痕を持つ須恵器片が認められる。平安時代の須恵器片は上層から1片出土しているのみであるため時期は古墳時代と思われる。遺物の特徴はH1・2号住居址に類似するところが多いことから、ほぼ同時期である5世紀中～後半としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石、黄褐色砂含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、黄褐色砂含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石、小石、砂含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化層。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、炭化物少量含む。しまりなし。



D1号土坑・遺物実測図

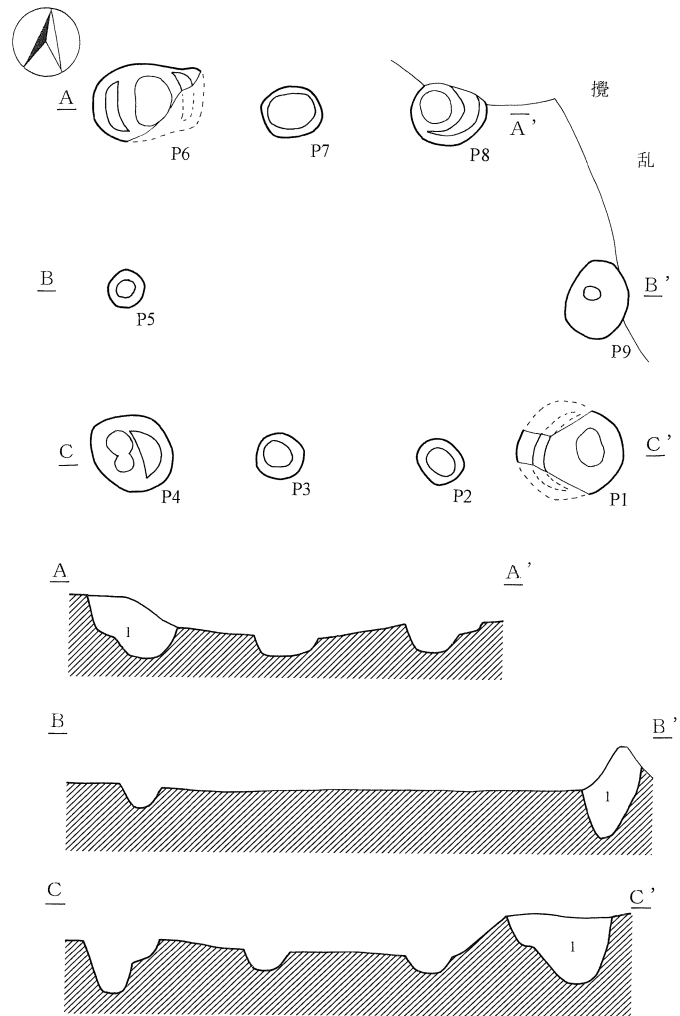
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	高坏	—	—	—	内外面横ナデ、内面ミガキ	口縁破片	良	2.5YR5/6 明赤褐色
2	土師器	高坏	—	—	—	内外面横ナデ ミガキ	口縁破片	良	2.5YR4/4 鈍い赤褐色
3	土師器	高坏	—	—	—	内外面暗文	坏部口縁破片	良	5YR6/6 橙色
4	土師器	高坏	—	—	—	内外面暗文	坏部口縁破片	良	5YR5/6 明赤褐色
5	土師器	高坏	—	—	—	外面ミガキ、内面横ナデ	脚裾部破片	良	5YR5/6 明赤褐色
6	須恵器	坏	—	[8.4]	—	底部回転糸切り	底部破片	良	10YR8/1 灰白色

D1号土坑遺物観察表

F1号掘立柱建物址

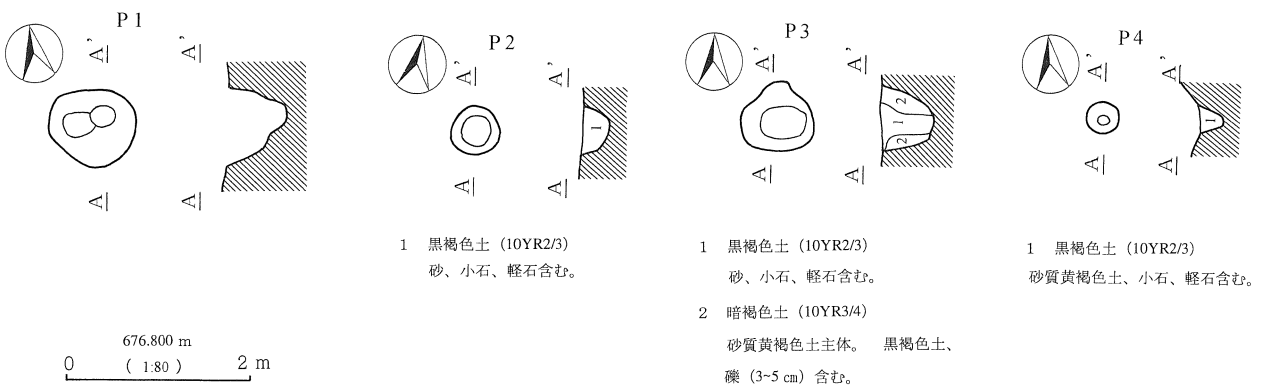
遺構はH1号住居址内に収まる形で存在し、住居址を切る。2間×3間の側柱である。当初は本遺構が完全に住居址内に収まっていたことから確認できず、住居址掘り下げ中に全体の状況が認められたため、上部の形状は不明である。いずれのピットも住居址床面を掘抜いていることから遺構確認面からの深さは64cm～80cmを測る。それぞれのピット掘方は残存及び土層断面での状況から確認面上の径80cmを有する大型であったと思われる。覆土は単層で混じりのある土質であることから廃棄時に柱の抜き取り作業が行われた可能性が考えられる。

遺物は土師器の坏、甕片が出土しているが、時期の断定はできない。確実なことは5世紀のH1号住居址以降の建物址ということである。



F1号掘立柱建物址実測図

ピット



ピット実測図



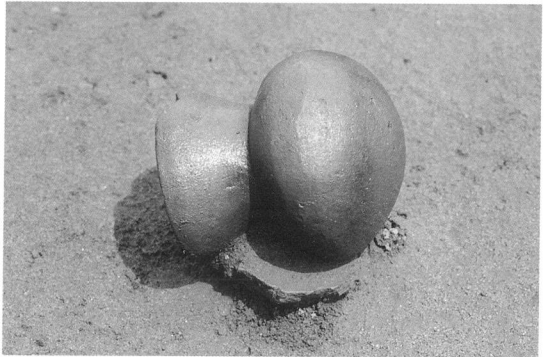
仲田遺跡II全景（南から）



表土除去作業（南から）



H1号住居址全景（南から）



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址南壁中央付近遺物出土状況（北から）



H1号住居址南壁西寄り遺物出土状況（北から）



H1号住居址全景遺物除去後（南から）



H1号住居址カマド（南から）



H1号住居址カマド（南東から）



H1号住居址カマド焼き口天井石除去後（南から）



H1号住居址調査風景（南東から）



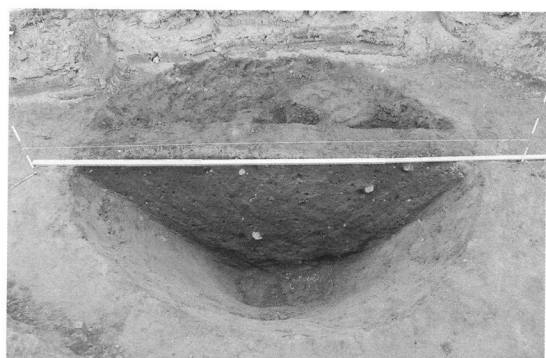
H1号住居址掘方全景（南から）



H2号住居址全景（西から）



H2号住居址掘方全景（西から）



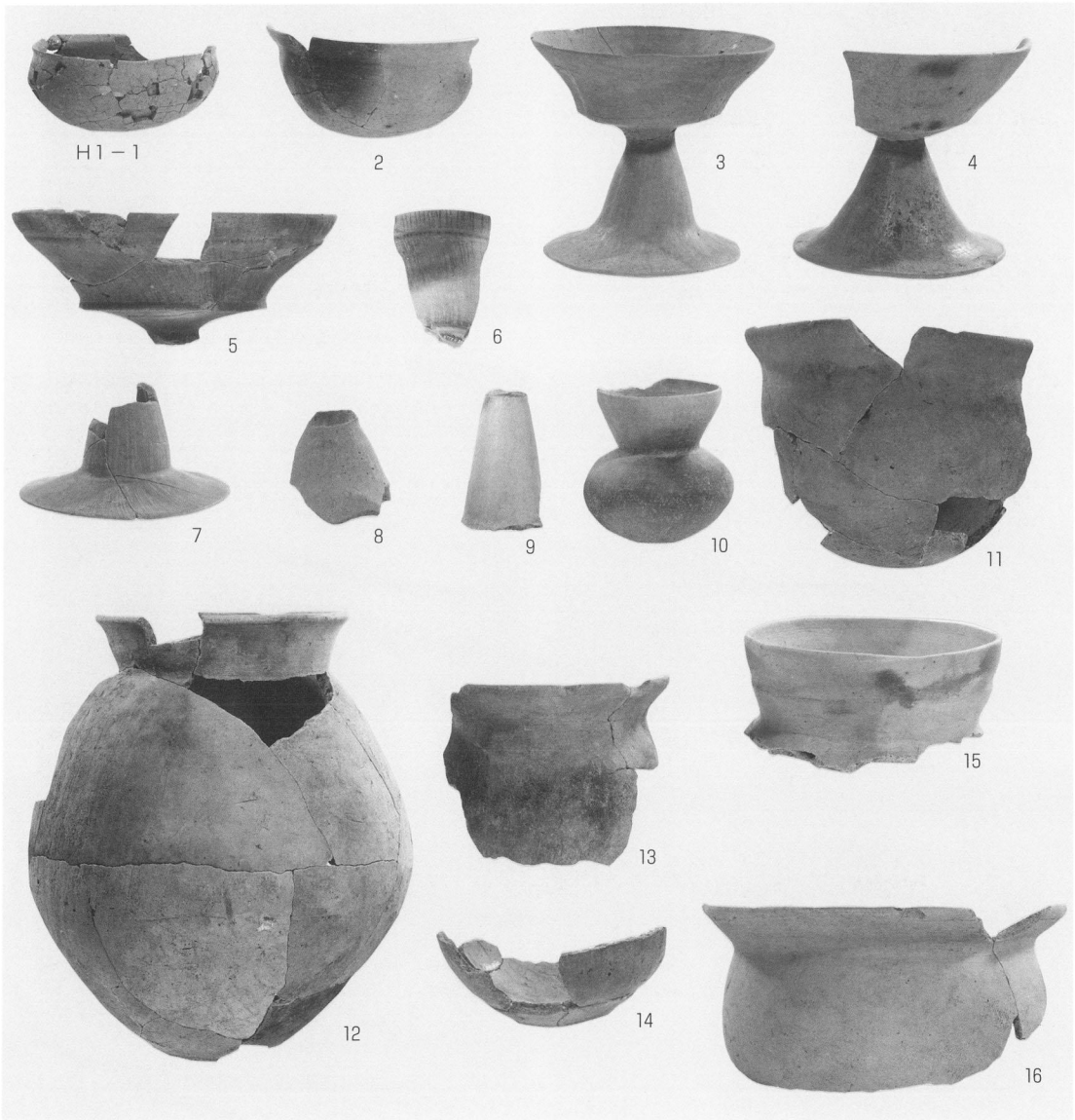
D1号土坑土層断面状況（西から）



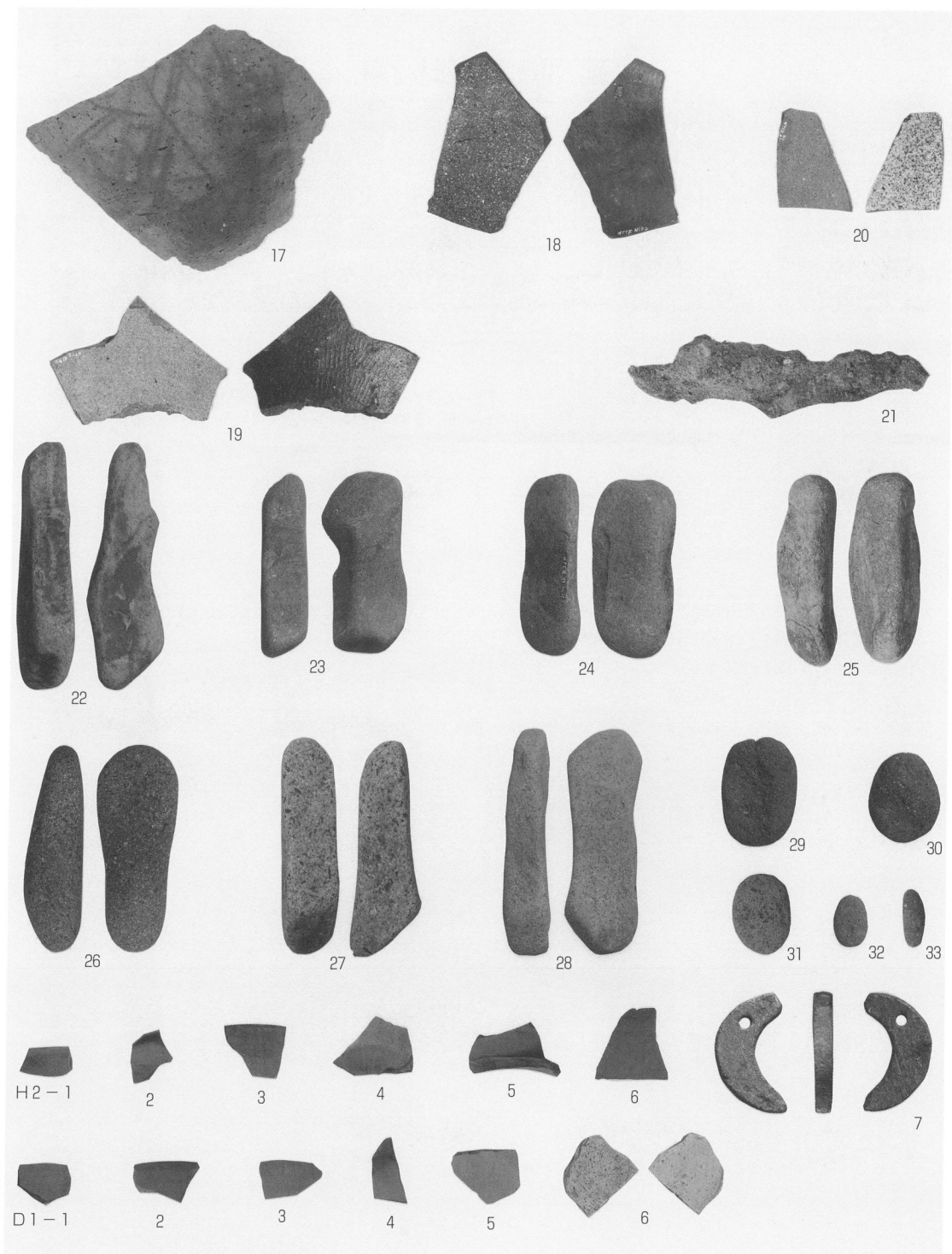
D1号土坑全景（北から）



F1号掘立柱建物址全景（南から）



H1号住居址遺物



H1・2号住居址、D1号土坑遺物

報告書抄録

書名	仲田遺跡Ⅱ
ふりがな	なかたいせきに
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第141集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2006. 12. 31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	<small>ながのけんさくししが</small> 長野県佐久市志賀5953
遺跡名	仲田遺跡Ⅱ(NTTⅡ)
遺跡所在地	佐久市猿久保字仲田538-1、538-7、541-5
遺跡番号	252
経度	36 15 32
緯度	139 48 15
調査期間	2006. 6. 5～2006. 6. 20 (現場) 2006. 6. 21～2006. 12. 31 (整理)
調査面積	180㎡
調査原因	宅地造成(貸店舗の建設)
種別	集落址
主な時代	古墳時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址2軒(古墳時代中期2軒)土坑1基(古墳時代中期) 掘立柱建物址(古墳時代中期以降1棟)ピット(4個) 遺物 土器(古墳、奈良平安)、鉄製品(古墳)、石器(古墳)
特記事項	



佐久市埋蔵文化財調査報告書 第141集

仲田遺跡Ⅱ

2006年 12月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社佐久印刷所
